

令和8年度第4回 感染症発生動向調査協議会

令和8年7月15日

月番：川本 典生

1 前月の感染症発生動向について（2026年第23週～26週・6月）

<全数把握対象疾患>

- ・ 結核：第23～26週に27例（結核患者21例、潜在性結核感染症6例）が報告された。結核患者は高齢者に多く、潜在性結核感染症は20歳代を中心に認められた。
- ・ 腸管出血性大腸菌感染症：第23～26週に3例が報告され、本年累計は17例で前年同期を上回っている。
- ・ E型肝炎：第26週に1例が報告された。
- ・ レジオネラ症：第23～26週に2例が報告された。本年累計は15例で、前年同期を下回る一方、前々年同期を上回っている。
- ・ 梅毒：第23～26週に13例（男性7例、女性6例）が報告された。本年累計は72例で前年同期を下回っている。男性の風俗利用歴の割合は前年と同程度で、女性の風俗従事歴の割合はやや低下している。
- ・ 後天性免疫不全症候群：第24週に50歳代男性のAIDS発症例が1例報告された。
- ・ 侵襲性肺炎球菌感染症：第23～26週に2例が報告された。年齢は5～9歳および50歳代であった。
- ・ その他：ウイルス性肝炎（A型・E型を除く）1例、侵襲性インフルエンザ菌感染症1例、百日咳2例などが報告された。

<定点把握対象疾患>

- ・ インフルエンザ・新型コロナウイルス：発生数は低水準で推移している。
- ・ 手足口病：定点当たり報告数が23週の0.9から26週には2.3まで増加しており、流行が始まっている。
- ・ ヘルパンギーナ：前月計(0.2)に比べ今月計(1.6)と増加しており、流行が始まっている。
- ・ 性感染症（定点）：性器クラミジア(1.9)および性器ヘルペス(0.4)の定点当たり報告数が、4月以降増加傾向にある。

2 検討すべき課題

3 情報提供すべき事項

4 情報提供（月番委員専門分野から）

- ・ RS ウイルス感染症の予防対策：2026 年 4 月より、妊婦を対象とした RS ウイルス母子免疫ワクチンの定期接種が開始された。また、乳児に投与する長時間作用型抗 RS ウイルスモノクローナル抗体製剤についても、予防接種法上の定期接種に位置づけるための法整備が進められている。
- ・ 受動免疫の位置づけに関する留意点：抗体製剤はワクチンとは異なる受動免疫である。予防接種法上「定期接種」と位置づける場合には、抗体製剤への「接種」という用語の使い方を含め、両者の違いを市民に分かりやすく周知する必要がある。
- ・ 百日咳におけるマクロライド耐性菌（MRBP）への警戒：百日咳の流行に伴い、MRBP による乳児の重症例・死亡例が報告されている。日本小児科学会の注意喚起および日本小児呼吸器学会・日本小児感染症学会の診療指針を踏まえ、乳児への感染予防と耐性菌を考慮した治療が重要である。

<検討結果>